

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：82606

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02618

研究課題名(和文) 障害者への健康医療情報提供のあり方とヘルスリテラシー概念の再検討に関する研究

研究課題名(英文) Rethinking health literacy through information prescription for the persons with disabilities

研究代表者

八巻 知香子 (Yamaki, Chikako)

国立研究開発法人国立がん研究センター・がん対策情報センター・室長

研究者番号：60392205

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：視覚障害、聴覚障害、知的障害等により一般に流通している資料では情報が十分に入手できない人たちにも、提供可能な医療情報の資料は作成可能であること、しかしながら、既に作成されている資料はごくわずかであり、特に聴覚障害や知的障害のある方への資料作成方法については手法も未確立であること、現状では人手をかけた作成が必要となるため、作成できる人材育成から始める必要があることが示唆された。

また、こうした資料の作成には、伝達する医療情報の専門職と障害者のニーズを知る福祉の専門職の協働が不可欠であり、現存する国内機関が単独で作成することは難しく、機関同士の継続的な連携枠組みが必要であることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で蓄積した情報媒体作成の試行とそれへの評価、また、国内の情報提供の現状は、障害のある人個人のヘルス・リテラシーの高低に注目して評価を行う以前の課題が示されたといえる。アクセシブルな形態で情報を提供できる環境それ自体に注目した概念、社会環境を評価する発想、社会環境を改善するための方策とそれを測定する指標への着眼をもった研究が必要であることが示唆された。

本研究の実践的取り組みのうち、特に音声版作成の迅速化については実用化され、第3期がん対策推進基本計画の中間評価において「取り組みが進んでいる」と評価されることに貢献した。

研究成果の概要(英文)：It is possible to create medical information materials that can be provided to people with visual, hearing or intellectual disabilities who do not have access to sufficient information in generally available materials, but only a few materials have already been created, and methods for creating materials for people with hearing or intellectual disabilities in particular have not yet been established. It was also suggested that, at present, it is necessary to start with the training of personnel who can prepare such materials, as they require a lot of manpower.

In addition, it was found that collaboration between medical specialists and welfare specialists who know the needs of people with disabilities is essential for the preparation of such materials, and that it is difficult for existing domestic institutions to prepare such materials on their own, and that a framework for continuous collaboration between institutions is necessary.

研究分野：ヘルスコミュニケーション

キーワード：障害 ヘルス・リテラシー アクセシビリティ ユニバーサルデザイン がん情報

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

健康・医療に関する情報はすべての人が享受できるべき権利であり (U.S. department of Health and Human Services, 2010) その情報を理解、評価、活用できる力、すなわちヘルス・リテラシーを高めることは、QOL の向上に不可欠な要素として広く認識されるようになってきていた (Osborne, 2004)。障害者は一般の人以上に健康上のニーズを多く抱えている場合が多く (Carroll, 2014) 故に健康や医療に関する情報を最も多く必要としていると考えられるが障害のある人々の利用できる健康医療情報はきわめて限られていた (Kreps 2005)。

視覚障害者の情報入手環境については、IT 機器、インターネットの普及、情報のデジタル化は障害者の情報入手や自立や社会参加に多大な影響を与えており、これらが使いこなせる一部の視覚障害の有る人がアクセスできる情報は飛躍的に増えてはいるものの、今なお情報が得にくく (佐藤, 2015)、インターネットを使いこなす人であっても情報探索には障害のない人の 2 倍から 5 倍の時間を要すること (Craven, 2003) などが指摘されていた。聴覚障害者のコミュニケーション上の困難、医療受診の状況も広く指摘される状況にあった。一方、医療情報を適切に入手し、それを活用することができる市民像を求めた取り組みの中で、ヘルス・リテラシー概念が注目を集めていたが、情報入手や理解において制約となる様々な障害のある人にとって有益な方法はほとんど見出されていなかった。障害のある人への健康医療情報のコミュニケーションについては、十分な研究が進んでおらず、早急な取組が必要な状況であった (Williams-Piehota, 2010)。

2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究では、がんを中心とする、健康医療情報の提供にあたり、障害のある人が必要とする健康・医療情報のニーズと、そのニーズに公的サービスとして応えるべき範囲を明らかにすること、そして公的に応えるべき範囲の情報提供を可能とするための手法を開発することを目的とした。具体的に以下の 4 点に取り組むこととした。

- 目的 1 : 障害者差別禁止法制定先行国における健康医療情報提供方法の把握と国内課題を同定すること
- 目的 2 : 情報入手・処理が制限される状況下で必要とされる“コア情報”の特定とそれを伝えるための最適なツールの開発すること
- 目的 3 : 現状の情報提供実態の把握と開発した情報ツールを用いた情報提供モデルを試行すること
- 目的 4 : 情報入手・処理の状況に応じた情報提供のあり方とそれに基づくヘルス・リテラシー概念の再定義を行うこと。

3. 研究の方法

それぞれの目的を達成するため、以下の方法により研究を進めた。

- 早期に障害者差別禁止法が制定された米国および北欧での障害者向けの情報作成・提供体制とデジタル技術の活用方法についての調査の実施
- 視覚障害、聴覚障害、知的障害のある人が利用可能な健康医療情報資料の試作を行い、作成のスピード、わかりやすさ、伝わりやすさの点から評価の実施
- 公的な情報提供施設 (視覚障害者情報提供施設、聴覚障害者情報提供施設、公共図書館等) での健康医療情報の提供環境、医療機関における障害者対応の実態把握
- 障害のある人が健康医療情報にアクセスできる環境整備に必要な事項に関する検討

4. 研究成果

目的 1 :

米国での 2017 年の調査において、英語圏ではより迅速に視覚障害者向け情報に変換することができるテキスト DAISY や合成音声の利用が進んでいること、また点字・録音資料の製作は米国議会図書館視覚身体障害者サービス部門が一括して行い、各州の点字図書館では障害者個人への貸し出しサービスに徹していることが明らかになった。2019 のスウェーデン、デンマークでの調査の結果、比較的人口の少ない言語においても、合成音声の活用が積極的に行われており、資料作成の時間短縮することの利便性が重視されていることがわかった。一方、米国議会図書館と NCI、NIH 等の国立医療機関との連携はなく、本研究で取り組んでいる、国立の医療情報発信機関と、点字図書館など資料を作成する福祉機関との連携の試みの先駆性が明らかになった。

目的 2 :

以下 1) 2) 3) に示す、視覚障害、聴覚障害、知的障害のある人が利用可能な健康医療情報資料の試作とその評価を通じて、視覚障害者向けの「音声版」についてはデジタル技術の活用で一定程度効率的に資料作成を行う方法が確立できたが、知的障害者向けの「わかりやすい版」にや聴覚障害者向け「手話版」については、人手をかけた作業が必要であり、作成できる人材の育

成も必要であった。また、作成にあたっては各疾患分野の専門職と、障害ニーズに精通した福祉専門職の協働が不可欠であることも明らかとなった。

1) 視覚障害者向け「音声資料」版手法の検討

がん、糖尿病、肝炎に関する視覚障害者向け情報媒体を作成する機関ネットワークを構築し、それぞれの資料を作成・公開した。各疾患情報を担当する専門機関と、資料作成を担う福祉機関の連携により、正確な資料の作成がスムーズに進むことを確認できた。資料作成スタッフによる、資料のわかりやすさ、正確さに関する質的調査を行なった結果、音声・点字情報のわかりやすさについては、用語等の平易さ、親しみやすさだけでなく、まず情報の構造がシンプルであることが必須課題であることが明らかになった。

デジタル技術の活用により、迅速な情報作成を可能とする手順を確立し、実用化した。元の文字からテキスト DAISY (Digital Accessible Information System) を作成し合成音声でテキストを読み上げ、その音声を抽出する「簡易版」、その後肉声での読み上げと図表の説明を加えた「完全版」の2版を作成することで、迅速な情報公開が可能となった。この成果は国立がん研究センターでの実運用にそのまま活用され、更新された音声資料数が飛躍的に増加した。その結果、第3期がん対策推進基本計画の中間評価では、「取り組みが進んでいる」と評価されることに貢献した。

2) 知的障害者向け「わかりやすい版」資料の作成手法の検討

「大腸がん わかりやすい版」を、がん医療分野、知的障害者支援分野双方を含むチームによって試作し、そのプロセスを検討した。情報を絞り込む過程においては、先の見通しを具体的にイメージできるように伝えることを優先し、医学的知識の説明等は省く、医療用語のうち診療場面で用いられる必須の用語については残しつつ、平易な表現となるよう調整した。感覚的に掴みやすいようイラストを多用する構成とした。知的障害者のニーズを熟知した作成者が、重要な情報を抽出し、「適切なわかりやすい情報」に置き換える力量と、置き換えた情報の正確さを担保する医療専門職との協働が不可欠であることが明らかとなった。

こうして作成した資料は、知的障害のある当事者による評価でも、支援専門職による評価でも、概ねわかりやすいと評価され、実際に活用できると思うと回答された。この作成手法では、知的障害者のニーズを熟知した作成者が、重要な情報を抽出し、「適切なわかりやすい情報」に置き換える力量と、置き換えた情報の正確さを担保する医療専門職との協働が不可欠であること、他疾患についても同様の手法を広げていくことの必要性が示唆された。

3) ろう・難聴者（聴覚障害者）向け「手話版」資料作成プロセスの検討

「大腸がん 手話版」を作成し、ろう・難聴者による評価を行った。手話版の作成プロセスにおいて、医療用語が十分に手話言語の中で普及していないこと、そのためわかりやすい資料とするためには、補足説明や視覚情報による補足が必要となることが明らかになった。初めての試みの中で、【手話の言語特性を踏まえたより正確な翻訳】【ろう者に合わせたヘルスコミュニケーション翻訳】の2つを必要とすることが明らかとなり、医療専門用語などを熟知した日本手話翻訳者の必要性等が示唆された。また、ろう・難聴者による評価では、概ねわかりやすいという評価を得たが、視覚的な提示の方法には様々な要望があり、作成の定式化に向けては検討要素が残されていることが明らかとなった。

また、新型コロナウイルスへの対応を示す資料については、点字版、音声版、わかりやすい版、手話版を同時に作成したが、手話版の作成はもっとも労力と時間を必要とする状況であり、作成者の育成や手法の洗練・確立が必要であることが認識された。

目的3:

公共図書館等への訪問調査結果では、障害のある人からの医療情報請求は公共図書館に届いておらず、障害者を意識した健康医療情報の提供はほとんど行われていないことを把握した。座談会・シンポジウムでは、視覚障害者への健康医療情報を提供するための仕組みは整備されているもののコンテンツが不足していること、知的障害者とディスレクシアにはやさしい日本語で書かれた書籍が有用であるが出版点数が限られていることを把握した。他方、手話を第一言語とする聴覚障害者が求めている手話付き映像資料の制作・流通体制は未整備で、公共図書館における手話付き健康医療情報の提供は考えられていないことが明らかとなった。

聴覚障害者情報提供施設においては、手話版の健康医療情報はほとんど提供されておらず、資料そのものが国内にないことを裏付けるものと考えられた。

医療機関における視覚障害者への対応の状況について、障害者差別解消法施行前後の推移を測定したが、施行後においても障害のある人への対応について病院での対応は安定していないことが明らかとなった。この知見を踏まえて、視覚障害のある人が医療機関を受診した際に提供すべき配慮について示したパンフレットを作成し、配布したうえで評価を行ったところ、有用であるとの結果が得られ、医療機関に向けた継続的な啓発の必要性も示された。

目的4:

以上の結果から、視覚障害、聴覚障害、知的障害等により一般に流通している資料では情報が

十分に入手できない人たちにも、提供可能な医療情報の資料は作成可能であること、しかしながら、既に作成されている資料はごくわずかであり、特に聴覚障害や知的障害のある方への資料作成方法については手法も未確立であること、現状では人手をかけた作成が必要となるため、作成できる人材育成から始める必要があることが示唆された。また、こうした資料の作成には、伝達する医療情報の専門職と障害者のニーズを知る福祉の専門職の協働が不可欠であり、現存する国内機関が単独で作成することは難しく、機関同士の継続的な連携枠組みが必要であることが明らかになった。

この状況は、障害のある人個人のヘルス・リテラシーの高低に注目して評価を行う以前の課題が示されたといえる。アクセシブルな形態で情報を提供できる環境それ自体に注目した概念、社会環境を評価する発想、社会環境を改善するための方策とそれを測定する指標への着眼をもった研究が必要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 八巻知香子, 高山智子	4. 巻 18
2. 論文標題 信頼できるがん情報の提供と研究における患者・市民の参画の試み：国立がん研究センターがん対策情報センター「患者・市民パネル」のこれまでの活動と今後	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 128-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三輪真木子・八巻知香子・田村俊作・野口武悟	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 視覚障がい者の健康医療情報ニーズの特性と提供の際の課題。	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代の図書館	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 八巻知香子, 高山智子.	4. 巻 27(4)
2. 論文標題 ラジオドラマおよび冊子を用いたがん相談支援センターの周知効果の特徴に関する検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本健康教育学会誌	6. 最初と最後の頁 307-318.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Saeko Kikuzawa, Bernice Pescosolido, Mami Kasahara-Kiritani, Tomoko Matoba, Chikako Yamaki, Katsumi Sugiyama.	4. 巻 228
2. 論文標題 Mental health care and the cultural toolboxes of the present-day Japanese population: Examining suggested patterns of care and their correlates.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 252-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高山智子, 八巻知香子, 早川雅代, 若尾文彦, 木内貴弘	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 がんコミュニケーション学で期待されるもの: がん対策基本法および第3期がん対策推進基本計画からの実践と研究への示唆.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌	6. 最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八巻知香子, 原田敦史.	4. 巻 14(1)
2. 論文標題 「医療従事者のための見えにくい方へのサポートガイド」の作成とその評価.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌.	6. 最初と最後の頁 35-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八巻知香子	4. 巻 26(3)
2. 論文標題 がんの治療と仕事の両立からみた政府主導「働き方改革」の整合性と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本健康教育学会誌	6. 最初と最後の頁 305-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11260/kenkokyoiku.26.305	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saeko Kikuzawa, Bernice Pescosolido, Mami Kasahara-Kiritani, Tomoko Matoba, Chikako Yamaki, Katsumi Sugiyama	4. 巻 228
2. 論文標題 Mental health care and the cultural toolboxes of the present-day Japanese population: Examining suggested patterns of care and their correlates	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine.	6. 最初と最後の頁 252-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2019.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasahara-Kiritani M, Matoba T, Kikuzawa S, Sakano J, Sugiyama K, Yamaki C, Mochizuki M, Yamazaki Y	4. 巻 35
2. 論文標題 Public perceptions toward mental illness in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian J Psychiatr	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2019.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三輪 眞木子	4. 巻 68(11)
2. 論文標題 情報を探しやすくするには	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 情報の科学と技術	6. 最初と最後の頁 536-541
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18919/jkg.68.11_536	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八巻 知香子、高山 智子	4. 巻 64
2. 論文標題 視覚障害者における健康診断・がん検診の受診と健康医療情報入手の現状：点字図書館・視覚障害者団体登録者への調査結果	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 270～279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11236/jph.64.5_270	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三輪眞木子, 田村俊作, 池谷のぞみ, 須賀千絵, 八巻知香子, 高山智子, 越塚美加.	4. 巻 62(1)
2. 論文標題 公立図書館医療健康情報サービスへの要望：がん患者のインタビュー調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 薬学図書館	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 三輪眞木子・八巻知香子・田村俊作・野口武悟
2. 発表標題 視覚障がい者の健康医療情報ニーズの特性と提供の際の課題
3. 学会等名 日本図書館情報学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八巻知香子, 谷口晃瑠, 中谷有希, 佐藤稔子, 岩満優美, 土屋雅子, 高橋都
2. 発表標題 ウェブサイトで公開するAYAがん体験談集の評価に関する研究
3. 学会等名 第2回 AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八巻知香子, 高山智子, 井上洋土, 池口佳子
2. 発表標題 院内他部署からみたがん相談支援センターの特徴に関する研究
3. 学会等名 第11回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 C. Yamaki, T. Takayama, Y. Itoh, Y. Nakatani, F. Wakao.
2. 発表標題 Reaching out to public libraries to help reduce cancer information disparity
3. 学会等名 UICC 2018 World Cancer Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chikako Yamaki.
2. 発表標題 Working together at the headwaters: Collaboration between disease information centers and braille libraries for making medical information accessible for all
3. 学会等名 44th Annual Meeting of The Japanese Society of Health and Medical Sociology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上洋士, 八巻知香子, 高山智子, 若尾文彦.
2. 発表標題 公共図書館を通じたがん情報の普及に関する研究
3. 学会等名 第56回日本癌治療学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷口晃瑠, 中谷有希, 八巻知香子, 佐藤稔子, 高橋都, 岩満優美.
2. 発表標題 AYA世代のがん経験者における体験談作成に伴う心理的反応.
3. 学会等名 第31回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木下乙女, 早川雅代, 八巻知香子, 志賀久美子, 藤下真奈美, 小郷祐子, 高橋朋子, 池口佳子, 高山智子
2. 発表標題 電話相談の音声記録を用いた乳がんに関する相談者の疑問の実態把握.
3. 学会等名 第10回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古谷緑, 奥田ゆり子, 八巻 知香子.
2. 発表標題 多分野機関協働によるがん情報普及のための情報提供講座の検討 - 「本と一緒に“がん”を語ろう」開催の意義.
3. 学会等名 第8回がん相談研究会大会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 八巻 知香子, 高山 智子, 早川 雅代, 若尾 文彦.
2. 発表標題 がん相談支援センターの活動改善のためのフィードバック指標に関する研究 ~ 第1報 ~
3. 学会等名 第55回日本癌治療学会学術集会. (2017.10.20-22. 横浜).
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中谷有希, 八巻知香子, 高山智子.
2. 発表標題 がん患者や家族が求める他者の体験談-必要な時に必要な体験的知識は得られているか-
3. 学会等名 ~ 第55回日本癌治療学会学術集会. (2017.10.20-22. 横浜).
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤稔子, 八巻知香子, 中谷有希, 岩満優美, 高橋都.
2. 発表標題 AYA 世代のがん経験者が求める体験談に関する研究 ~ 第55回日本癌治療学会学術集会.
3. 学会等名 (2017.10.20-22. 横浜).
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小郷祐子, 八巻知香子, 高山智子.
2. 発表標題 がん相談支援センターの相談員が医療情報の支援を行う上で求められる力についての検討.
3. 学会等名 第55回日本癌治療学会学術集会. (2017.10.20-22. 横浜).
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋朋子, 八巻知香子, 高山智子.
2. 発表標題 高齢がん患者と家族の相談支援における困難と相談員に求められる能力.
3. 学会等名 第55回日本癌治療学会学術集会. (2017.10.20-22. 横浜).
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Makiko Miwa, Nozomi Ikeya, Shunsaku Tamura, Chie Suga, Chikako Yamaki, Tomoko Takayama, and Mika Koshizuka
2. 発表標題 hat Cancer Patients Expect from Public Libraries in Japan
3. 学会等名 The 8th Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practces (A-LIEP2017), Chulalongcorn University, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 総合的な思春期・若年成人 (AYA) 世代のがん対策のあり方に関する研究」班	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金原出版株式会社	5. 総ページ数 132
3. 書名 AYA世代がんサポートガイド	

1. 著者名 (分担執筆) 高山智子, 八巻知香子.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有信堂.	5. 総ページ数 242
3. 書名 身体の病気とその予防・つきあい方. pp80-87. In 山崎喜比古監修, 朝倉隆司編. 新・生き方としての健康科学.	

1. 著者名 (分担執筆) 高山智子, 八巻知香子, 早川雅代.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 株式会社法研	5. 総ページ数 204
3. 書名 がん医療が問いかける新たな医療コミュニケーション. pp15-47. In 公益社団法人医療科学研究所監修 徹底研究 患者本位のがん医療	

1. 著者名 (分担執筆) 早川雅代, 八巻知香子, 高山智子.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 株式会社法研	5. 総ページ数 204
3. 書名 患者本位のがん医療の実現に向けた医療コミュニケーション環境整備の課題と展望. pp49-74. In 公益社団法人医療科学研究所監修 徹底研究 患者本位のがん医療	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>がん情報サービス > 音声・点字資料 https://ganjoho.jp/public/universal/index.html 糖尿病情報センター > 音声資料 http://dmic.ncgm.go.jp/general/voice/index.html 肝炎情報サービス > 音声資料 http://universal.kanen.ncgm.go.jp/index.html 糖尿病情報センター 音声資料 http://dmic.ncgm.go.jp/general/voice/index.html 肝炎疾患に関する音声資料 http://universal.kanen.ncgm.go.jp/index.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高山 智子 (Takayama Tomoko) (20362957)	国立研究開発法人国立がん研究センター・がん対策情報センター・部長 (82606)	
研究分担者	関 由起子 (Seki Yukiko) (30342687)	埼玉大学・教育学部・教授 (12401)	
研究分担者	田村 俊作 (Tamura Shunsaku) (70129534)	慶應義塾大学・文学部(三田)・名誉教授 (32612)	
研究分担者	三輪 眞木子 (Miwa Makiko) (90333541)	放送大学・教養学部・特任教授 (32508)	
研究分担者	北山 裕子 (Kitayama Yuko) (00747496)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・客員研究員 (82610)	削除：2019年9月17日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関